

第二〇二回通信句会 選句結果

選句数 八句 一句特選

締切り 八月三十一日(水)

1	01	梅雨明けて鳥のさへづり弾みけり	忠 夫	3 ①	29	ぼふうらの生ある限りと伸び縮む	佳 史
3	02	日傘の群れよけてかはして出勤す	美紀子	4 ①	30	草引くや元二等兵の軍歌かな	幸
11 ②	03	大花火月に当たりて砕け散る	み さ	7	31	墨文字へ汗のひとつぶ滲みけり	友 子
3 ①	04	母つひに夢見始めし盆の月	守	11 ②	32	終戦日一人の箸を置きにけり	守
3	05	梅干しのころころ笑むこと並びをり	ヤエ子	9 ②	33	もてなしは風吹き抜ける夏座敷	幸
6	06	度忘れのふえて苦笑や夕端居	与 史	2 ①	34	底なしの沼に陥る熱帯夜	幸 枝
	07	今日も見し大夕焼の没しゆく	眞 三	3 ①	35	夕立あと金滴らす金閣寺	貞 勝
9	08	かに股に鴉の歩く大暑かな	貞 勝	7	36	ペデイキエアの紅輝けり夏の海	ヤエ子
1	09	田高も猛暑も続く胸臍用	幸 枝		37	夏終る顔の写真の笑ひ顔	秀 一
2 ①	10	棚経の僧入り来て風ゆらぐ	文 枝	3 ①	38	朝蝉は今日ある証と鳴きやまず	佳 史
5	11	肩骨の鳴るや老残夏の朝	佳 史	1 ①	39	蝉の声話題ともなる病む地球	溪 水
7	12	濡れし手をスポンで拭く子暁夏光	秀 一	1	40	炎帝に灼かれ川音細くなる	み さ
1 ①	13	明け易し時計見いく床離る	溪 水	3	41	「まだある？」と子供にかまれフムネ売り美紀子	
8	14	将棋の歩一手の負けに団扇風	幸	6 ①	42	建て替へて又も馴染みの守宮かな	与 史
8	15	老鷺の遠音も馳走森の宿	友 子	2	43	細腰のコスモスなれど風に耐へ	忠 夫
8 ③	16	長生きは罪なのですか秋螢	守	1	44	師の声のもう一息に硯洗う	文 枝
2 ①	17	南瓜汁戦後のはるかはるかなり	文 枝	2	45	梅雨明の広がりて空光る街	眞 三
3 ①	18	思ひつき聞かすひとぬ夜の秋	秀 一				
4	19	東北のトマト旨しや昼の膳	ヤエ子				
6	20	魚拓みな受け口ひらき日の盛	貞 勝				
3	21	怪談の佳境に入りぬ夏座敷	友 子				
4	22	握き立ての太陽の味ミニトマト	忠 夫				
8	23	交番はいつも空つぽ花菱	み さ				
	24	山の奥夕蝉の音を聞く深き	眞 三				
1	25	腋芽摘む指先トマトの香にじむ	幸 枝				
1	26	原爆忌並びて痛し原発機	溪 水				
2	27	灼けし道蔭を探して歩を早め	美紀子				
1	28	出来過ぎの胡瓜を配る熨斗つけて	与 史				

注 (特選一名未記入)

得点順

十二点

- ②大花火月に当たりて砕け散る 小川名みさ
②終戦日一人の箸を置きにけり 増田 守

九点

- ②もてなしは風吹き抜ける夏座敷 稲葉 幸
かに股に鴉の赤く大暑かな 野上 貞勝

八点

- ③長生きは罪なのですか秋蛭 増田 守
将棋の歩一手の負けに団扇風 稲葉 幸
老鶯の遠音も馳走森の宿 藤本 友子
交番はいつも空つぼ花葵 小川名みさ

七点

- 濡れし手をスポンで拭く子晩夏光 佐渡谷秀一
墨文字へ汗のひとつぶ滲みけり 藤本 友子
ペディキュアの紅輝けり夏の海 岩野ヤエ子

六点

- ①建て替へて又も馴染みの守宮かな 平井 与史
度忘れのふえて苦笑や夕端居 平井 与史
魚拓みな受け口ひらき日の盛 野上 貞勝

五点

- 肩骨の鳴るや老残夏の朝 秋山 佳史

四点

- ①草引くや元二等兵の軍歌かな 稲葉 幸
東北のトマト旨しや昼の膳 岩野ヤエ子
挽き立ての太陽の味ミニトマト 安中 忠夫

(以下略)